

はもりあ

「はもりあ」とは造語で、女性と男性の協働という素敵な“ハーモニー”が奏でられる“中核エリア”という意味です。

2006年10月に公募で決定した男女共同参画センターの愛称です。

2008年12月1日発行

11月13・20日に初めて男性向けスイーツ講座を夜間講座として実施しました。

換気扇の関係でホワ〜ンと甘い香りのする、広報制作室。残業中の私たちの顔もついほころんでしまいました。そして何より、できあがったケーキを手にする参加者の皆さんの笑顔ときたら、最高でした。ほとんどの方がはもりあ四日市の存在を知らなかったとのことですが、「また来るよ」、「いい場所だ」と言ってもらうことができました。はもりあを身近な場所と思っていただけたのなら、とてもうれしいです。受講生の皆さん、次は、コーヒーでも飲みながら、“男女共同参画って何？”というお話をしましょう！！



男性向けスイーツ講座「男だって甘いもの」を

11月13日・20日に開催しました！

この講座は、料理に興味はあっても、なかなか作る機会がなかった男性に、作る楽しさを知り、そして、家事への自信を持っていただくために企画しました。はもりあ四日市の担当者が「働く男性が来やすい時間帯は？ 曜日は？」と検討し、そして、私どもの考えに賛同いただいた「アトリエオランジェ」のオーナー



パティシエ 小林史明さんにご協力いただき、実現しました。

料理教室でよく見られるような、作り方が書いてあるレジュメはなかったので、小林シェフから、ひとつずつ工程を説明していただくと、みなさん一生懸命メモを取られていました。小麦粉をふるうときも、あわ立てるときも、受講生の皆さんは真剣そのもの。スポンジが焼けて、クッキングシートをはずし、生クリームと苺をはさんで、くるっと巻く様子は、まったく初めてとは思えない手つきでした。ちょっとわからないことがあっても、オランジェのスタッフの方たちから優しいフォローが入り、とてもスムーズに進めることができました。皆さん、途中の工程や、ご

<説明いただく小林シェフ> 自分が作られたロールケーキの写真を携帯電話で撮影されていました。

アンケートには、「スイーツの料理教室は男性が参加するのは敷居が高い。男性だけの講座があってよかった」、「自分で作って感動した」、「夜間なら来れる！また企画して！」という意見があり、みなさんの評価は上々でした。ただ、この講座に参加していなかったら、普段はまだまだ仕事の時間という結果も出て、やはり男性は長時間労働の方が多いということもわかりました。また、子育てや料理などを普段からやっていると回答していただく方がいる一方、ほとんど何もしないという方もいらっしゃいました。



<真剣に飾付け中の受講生の皆さん>

今回のような講座を通して、性別役割分担意識（男性は仕事、女性は家庭）や“スイーツ・料理は女性のもの”と性別で分けるといった偏った考え方を見直していただく機会になればいいと思います。

次の企画は、「はじめての台所」。料理に興味はあるけれど、作れない・・・という初心者を対象にした講座です。おかげさまで広報よっかいち11月下旬号に掲載したところ、「三角巾ってなんですか？」、「男性用のエプロンは、売ってますか？」などの質問をいただきながらも、既に定員に達しました。乞うご期待！！

女性に対する暴力防止セミナーを開催しました！

11月21日に、勤労者総合福祉センターで講演会とパネルディスカッションを開催しました。

講師の戒能先生からは、従来、妻に対する暴力は「夫婦喧嘩・妻へのしつけ」、子どもへの虐待は、「親のしつけ」と考える方が多く、暴力として扱われていなかった、DVの実態は、1999年の時点で20人に1人という数字が出ている、暴力には、身体的暴力だけでなく、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力などがある。また、これらの暴力を目の当たりにしてきた子どもたちの精神的ケアも重要である等のお話がありました。2007年の改正DV防止法については、身体的暴力だけでなく“殺してやる！”など生命にかかわる脅迫があった場合も保護命令を申し立てできるようになった点や、接近禁止命令の効力が被害者の親族等へ拡大され、親族や支援者の安全も守られることになった点をご紹介いただきました。



＜熱く語っていただく戒能先生＞

続いて行われたパネルディスカッションでは、スクールカウンセラーの北川睦さんと本市の鈴木婦人相談員がパネリストとなり、それぞれの立場での現状、今、私たちにできることなどをお話いただきました。高校生でも



＜パネルディスカッションの様子＞

身体的暴力や携帯電話のチェックなどの束縛といった形のDVがあることや、外国人の女性からDV相談が増加しているという話がありました。

そして最後に、「まずは、DVについて関心を持ってもらい、ということがDVやデートDVか知っていただき、DVの被害を受けたとき、相談する機関があるということを皆さんに知ってほしい。今日のような講演会を開催することは重要。ぜひ、これらを通じて学んでほしい」とまとめられました。

『男女がいきいきと働いている企業』知事表彰企業が決定しました！

三重県では、平成14年度から職場における男女共同参画を推進することを目的に、県内企業を対象として、男女の雇用機会均等や仕事と家庭の両立支援、次世代育成支援などに積極的に取り組む企業を表彰しています。今年度は、4社を「男女がいきいきと働いている企業」として表彰し、そのうちの選考委員会奨励賞を四日市市のエスワイトラベル株式会社が受賞しました。ぜひ、他の模範として、より一層、男性も女性も各々が持てる力を十分に発揮できる働きがいのある職場環境づくりを進めていただければと思います。

今回の主な表彰理由を紹介させていただきます。

【女性主体で多能工化を目標に能力開発】

男女にかかわりなく採用してきた結果、従業員24人中20人が女性で、すべての部署で女性が中心的役割を担っている。従業員の多能工化を目標に掲げ、評価システムの明確化・透明化を進めて、従業員自らが目標を明確にして能力開発を進められるようにしている。また、旧姓の使用も可能で、就業規則にも明記され、現在利用されている。



【法定を上回る制度で育児や介護を支援】

育児休業は2年間、介護休業は1年間取得可能で、子どもの看護休暇の対象を小学校卒業までとし、1人6日以内、2人以上で最大10日まで取得可能。男性従業員を対象に、配偶者の出産時の特別休暇が5日間認められている。

【有給休暇取得や残業削減でも努力を重ねてワーク・ライフ・バランスを推進】

年次有給休暇の計画的取得を進めており、従業員の年休消化率は高い。

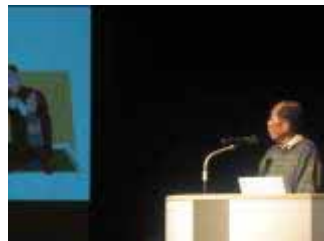
また、残業の少ない職場づくりにも努力を重ねるなど、ワーク・ライフ・バランスを実現している。

男女共同参画フォーラム ～みえの男女2008～

発表しました

このフォーラムは、みんながいきいきと暮らせる男女共同参画社会づくりのために、県内各地の人々が三重県男女共同参画センター(フレンテみえ)に集まり、さまざまなテーマで考え、交流する目的で毎年開催されています。

今年度は、フレンテみえの講座「まちづくり達人塾」に参加した達人塾四日市チームが、講座内で作成したプランを発表しました。わずか4人のチームでしたが、市の現状を男女共同参画の視点で振り返り、実際に歩いて現状を調べ、そして、平成18年度に実施した市民意識調査、子育て世代のワークライフバランス調査の結果を参考にして作成しました。そのプラン名は、「**大好きパパ応援団**」。



子育て中の男性を対象に、男性の子育てへのかかわりを支援する目的で、具体的にいくつかの活動内容を提案しました。講師の三重大学人文学部准教授 石阪督規先生からは、「男女共同参画を知らないメンバーが、一から学んでいく。そして、四日市を変えていこうとする意欲がすばらしい。」「提案のあった“子連れで銭湯”は、全国でもレアケースなので、情報発信できるだろう」と講評いただきました。

午後の部では、常磐男女共同参画をすすめる会代表の飯田淳子さんが「男女共同参画の視点ですすめる市町づくり」のシンポジストの一人として参加されました。今までの男女共同参画への取り組み、すすめる会の歩み、他の団体との上手な連携の秘訣などを、参加者の皆さんにわかりやすくお話いただきました。内閣府男女共同参画局推進課長、(株)第三銀行取締役頭取、亀山市の「いどばたクラブ」メンバーの方からも、それぞれの立場からお話いただき、石阪先生のコーディネートにより、有意義な時間を過ごすことができました。

今月のおすすめ本

12月3日の公開講座講師である、村瀬幸浩さんの本を紹介します。

「素敵にパートナーシップ 40歳からの性と生」

結婚し、母として父として生きるときを人生の前半(ファーストハーフ)とすると、子どもが成長し、手から離れた時からが人生の後半(セカンドハーフ)の始まりです。子ども抜きでパートナーとの長い人生の後半を、女性として男性として、いかに楽しく過ごしていくかを考える1冊です。

「性教育のこれまでとこれから」

“性教育は必要だ”と言われていますが、では、子どもたちに何を伝え、何を考えさせていったらいいのでしょうか?この本では、性差、性交、避妊、中絶等、真正面から取り上げてこなかった話題についても書かれています。まずは、自分から考えてみませんか?



図書の貸出期間は1ヶ月間です。
1人10冊まで借りられます。

今月のキーワード

合計特殊出生率

人口統計上の指標で、一人の女性が一生に生むことができる子どもの数を表したものです。

年	合計特殊出生率	出生数
2005	1.26	1,062,530人
2006	1.32	1,092,674人
2007	1.34	1,089,745人

子どもが減っているのは、女性が働くようになったからという意見もありますが、それは間違いです。出産・子育てと就労に対する環境整備、つまり両立支援策を進めているフランスをはじめとする多くの欧米諸国の出生率は、日本の出生率より高いのです。

国内に目を向けると、2005年の女性の就業率と出生率、女性の家事労働率と出生率の調査結果を見ると、女性が働く県ほど出生率が高く、男性の所得が高い県ほど出生率が低いという結果が出ています。これは、世帯収入が1人分だと経済的負担が大きいことと、育児・家事の女性への負担が大きいことが要因と考えられます。共働きになれば、家計収入が安定し、保育所を利用でき、安心して出産することができます。また、祖父母の支援や保育園が充実している県も出生率が高いようです。

登録グループイベント情報

- 12月6日(土) 「アレルギーの子も食べられるおやつバイキング&クリスマスパーティー」
アレルギー対応ケーキやスタッフの手作りワッフル・たい焼きなどのおやつもあります！
時 13:30～15:30 費 大人 1000円 子ども 500円(会員:大人 800円 子ども 400円)
所 はもりあ四日市 こどものへや 他 事前に下記に問合せが必要で
す
問・申 あれるぎっこおひさまの会四日市 吉武(090-7856-3093)
- 12月13日(土) 「スペース クリスマスバザー&フリーマーケット」
今年は、泥だんご遊びなどのプレイコーナーもあります。
時 10:00～14:00 所 こどもスペース事務所&市民広場(ｽﾊﾟｰｽより徒歩3分)
問 NPO法人 体験ひろば こどもスペース四日市(321-0883)
- 12月14日(日) **だめママクラブ「片付けられない私」**
「だめママクラブ」は、自分の気持ちを話す場所です。予約はいりません。お子様連れでどうぞ。
時 10:00～12:00 費 300円 所 はもりあ四日市 会議室
問 ままたまご 水谷(080-5166-9864)
- 12月14日(日) 「第11回 まま～ずマーケット」
子育て中のママの、ママによる、ママのためのフリーマーケットです。
FM よっかいち パーソナリティー 松岡由香さんの読み聞かせ(11:00～、13:00～)もあります。
時 10:00～14:00 所 山田町高若センター
問 みっくすじゅうす 田中(FAX328-1111)

登録グループ紹介

はもりあ四日市に登録されているグループさんを紹介していきます。

今回は、**あれるぎっこおひさまの会四日市**さんです。



代表者 浅川 知香子

連絡先 345-2390 (tel・fax)

四日市市を中心にアレルギーの子を持つ親同士が支えあう患者会です。2ヶ月に一度の定例会やクッキング、学校給食の相談、行政への要望などを行っています。アレルギーのために食べられない物があっても「かわいそう」という発想で子どもたちに接するのではなく、「食べられる物に感謝して前を向いていこう」というのが会の方針です。会名には、アレルギーがあってもおひさまのように明るく輝き、アレルギー子がニコニコ暮らせますように！という親の願いが込められています。

はもりあ四日市 年末年始のお知らせ

年末は27日まで開館しています。年始は、1月6日(火)から開館します。



四日市市男女共同参画センター (はもりあ四日市)

〒510-0093 四日市市本町 9-8 本町プラザ 3F

TEL.059-354-8331 FAX.059-354-8339

●開館時間 AM9:00～PM9:00

●休館日 日曜日、月曜日、祝日、年末年始

Eメール kyoudousankaku@city.yokkaichi.mie.jp

<http://www.city.yokkaichi.mie.jp/danjo/index.shtml>